

総務文教委員会記録

令和5年7月13日（木）
9時31分～12時25分
全員協議会室

【委員】 永見委員長、三浦副委員長、
肥後委員、大谷委員、芦谷委員、佐々木委員、西田委員
【議長・委員外議員】
【事務局】 松井書記

【議題】

- 1 行政視察を終えて（委員間で協議）
- 2 地域井戸端会に寄せられた意見等への対応協議について（委員間で協議）

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[9 時 31 分 開議]

○永見委員長

ただいまから総務文教委員会を開会する。出席委員は7名で定足数に達している。レジュメに沿って進める。

1 行政視察を終えて（委員間で協議）

○永見委員長

委員会報告書について、皆に所感を提出してもらった。それ以外に何かあればと、今後どのような活動の必要性があるかを全員に発表してもらいたい。

○肥後委員

京都の洛友中学校の夜間部が印象に残った。事前にネットの情報で分かったつもりになっていたが、実際に行くと、浜田市でも同じように学び直しがしたい人がいるのではないかと興味を持った。調査ができるようであれば実現に向けて研究していきたいと強く思った。

○佐々木委員

京都市の伝統的な教育における子どもたちへの思いはすごく強いものがある。それに基づいた取組が、居場所づくりの観点でもされているのを非常に強く感じた。夜間中学も併設され、非常に良い相互関係ができていると感じた。様々な段階やレベルでいろいろな子どもたちに対応できる姿勢、相談体制もしっかりつくられていて、非常に参考になる取組だと思った。今後の浜田市の居場所づくり、不登校対策だが、洛友中学校のどの部分でも良いので、もう少し何かしらの機能がある設置を早急に進めるべきだと、子どもが誰かと関わる居場所、仕組みづくりをまずは推進、設置してもらいたいと強く感じた。

○西田委員

洛友中学校においては、浜田と京都市の教育委員会の考え方の違いをすごく感じたが、浜田は浜田なりの取組をこれまでやってきた歴史があるので、それは尊重しながら、良かった部分を今後浜田にどのように取り入れたら良いかと感じた。京都市教育委員会のフリーエージェント制度など、学校の先生のことを取り上げて適材適所にとというやり方、考え方というのも参考になった。

上牧町のフリースクールは去年の9月に始まってそれほど経過していないので、いろいろと試行錯誤しておられると感じた。浜田においても山びこ学級や青少年サポートセンターのやり方にプラスで取り上げられることがあればぜひ参考にしたい。フリースクールというやり方も一つの参考事例だと思っている。青少年サポートセンター等、浜田における施設のあり方を今後もっと具体的に検討していかなくてはいけないと感じた。

○大谷委員

京都という政令指定都市で、市立の高等学校だけで10校ある規模なので単純に比較できないと思っているが、生徒と向き合う姿勢については参考になるところがあるので、生徒と関わるためにも予算的な充実が必要だろうと感じた。

上牧町の場合だが、一言で言えば浜田の山びこ学級のほうが良かったと感じている。所感に書いているが、歴史的にも内容的にも、上牧は開設9か月でこれからなので、その点からすると浜田のほうが良かったように思うので、今の環境をより充実させるような取組が大事だと思う。

それと、人的確保が一番の課題だと思う。現状の小中学校でも常勤の教員が配置されていない、非常勤になっているような現状の中で、さらにより深く、見識の高い、こうした子どもたちと接する教員をいかに確保するかが課題だと思う。

○芦谷委員

洛友中学校については、浜田市に置き換えた場合に「需要がないからない」という形なので、私はいつもどこへ行っても浜田に置き換えてみるのだが、この例を参考にしながら、もう少し浜田市でも前広に考える姿勢が必要であると思った。

上牧町については、浜田の青少年サポートセンター、山びこ学級を市役所の分庁舎の中に置いているのはどうなのかと思っているので、JAの建物を取得してそこに入るといふ、施設を別建てで造る姿勢を評価したいと思っている。

○三浦副委員長

いずれの視察先でも、そこに通う児童生徒と向き合う姿勢に感銘を受けた。洛友中学校で教員配置の話をしたが、例えば浜田市の山びこ学級の教員やスタッフの人員配置が適正なのか、現状をもう一度確認する必要があると思った。少人数になればなるほど充実はすると思うが、今の教員の数などを含めてハードルが高いという認識でもいるので、状況を確認しながら、改善なのか維持なのか、こういった形が良いのか委員会で検証しても良いのではないかと思った。

上牧町を見て、自分の中でもう少し勉強しないといけないと思ったのは、フリースクールというものが何を指すのかということが、調べてみるといろいろな形があって、山びこ学級もフリースクールと呼べるのかとか、フリースペースという、教育の場ではなくあくまで居場所なのだという考え方もあるように思う。上牧町は後者だったと思うが、そういったところの整理をしつつ、では浜田で今何が足りていないのか、どういう場所を行政として提供するのかという検討が必要だと思った。そういったいろいろなパターンを今回見ることで、浜田市の中での居場所、あるいは教育の場としての、学校以外の選択肢としての場づくりなど、こういった形で進めたら良いかという課題をしっかりと持って帰れたように思う。

○永見委員長

洛友中学校については昼間と夜間との二部制でやっているということで、また時間割によっては昼間の生徒と夜間の生徒が同じ教室内で一緒に学んでいる。やはり学びに対する思いも多少違うのではないかと思い、これは良い取組だと感じた。

もう1点、ふれあいの杜というものも説明してもらった。児童生徒の状態によって

それぞれの学習室を選んで学習する。入級後の支援等についてもいろいろ話をいただいた。このあたりはもう少し深掘りして取り組んでいけたらと感じた。

上牧町については官民連携によるフリースクールということで、教育委員会が管理し、運営はNPOに委託されている。それも官民連携の一つの方法で良いことだと思ったので、取組をもう少し深掘りしていけたらと感じた。

報告書については芦谷委員と肥後委員にまとめてもらったが、考察については今回どのように進めたら良いか。所感は各委員から出してもらったが、それをどのようにして報告書に考察として上げたら良いか、皆に伺ってまとめたい。

○三浦副委員長

それぞれに所感を述べていただいたが、今後浜田市での不登校児童生徒対策をどうしていくかを、この視察の内容を参考にして検討していくことになるので、皆の所感を基にどういった視点で今後委員会活動をしていくべきか、そういったところをもう少しお話しただくと、考察の中で今回の視察を受けて、今後委員会としてこういうところに着目しながら活動していきたいとか、まだ提言を出すとかまとめをする段階ではないと思うので、視察の所感としては、今後委員会としてどう取り組むかといったことを皆と共有できたら良いと思うのだがどうだろうか。

○永見委員長

今回2か所視察し、今後の委員会活動の中でどういう点に着目して取り組めば良いか、意見があればお話しただければと思うがどうか。

○西田委員

5月に青少年サポートセンターと山びこ学級を視察したが、浜田の現状と、今回視察に行ったエピソードをプラスして、今後の浜田のそういった施設のあり方は現状のままが良いのか、それとも具体的に少し動き出したほうが良いのか、その辺を議論していくのが良いのではないか。

○三浦副委員長

西田委員がおっしゃった部分で進めていくのが私も良いと思う。例えばどういうところを比較すると良いのか、何か具体的なポイントがあれば皆からいただきたい。

○西田委員

山びこ学級の現状がこのままで良いのか、中身や、もう少し環境を変えたら良いのか、あるいは場所は今のままで良いのか。そういったことも含めて、今の浜田の山びこ学級や青少年サポートセンターのあり方を今後検討していく必要があるのではないかと思う。

それと、先ほどフリースクール、フリースペースという話が出たが、以前総務文教委員会で福岡県春日市のフリースクールを視察に行った。そのときの春日市の取組というのが、子どもの居場所づくりというよりも地域と子どもたちの関わりを非常に重要視していたように思うので、そういった視点もあるのではないか。それも含めて今後議論を進めたら良いのではないかと思う。

○佐々木委員

青少年サポートセンターの視察に行った際に、職員から、山びこ学級の中に居場所の仕組みが必要だと聞き、青少年サポートセンターではなかなかそういう仕組みができないということだと思った。山びこ学級は授業のサポート的な、学習支援センターという位置付けなので、ある程度授業に意欲があるような人しか行けないが、愛知県春日井市の校内フリースクールは授業をしないフリースクール型で、授業以外で支援員と関わりを持ちながら、教室には行けないけどそこには通えるような仕組みができていた。私が一番大事だと思うのは、学校に行けない子どもたちが人と関われるような、フリースクールだろうが何らかの居場所だろうが、そういう場所がまずは必要だと思った。これは青少年サポートセンター支援員の生の声である。人と関わることで先々いろいろな可能性が開くので、人との関わりさえ閉ざしてしまうと可能性がなかなかなくなる。

上牧町もそうだと思うが、まずは誰でも良いというか、学校の先生でなくても子どもと関わることで何らかの居場所をつくっていく、子どもたちの可能性をせめてそこで留めていく仕組みが必要だと思った。

○芦谷委員

先ほど提言という話も出たが、議会なのでそこまで踏み込めないで、私はこの報告書を構成も含めて見直して、それをそのまま執行部に渡して、浜田市の例を踏まえて洛友中学校と上牧町の例を議会はこう見たが執行部はどうかということで、教育委員会で検討してもらえば良いと思っている。あまり根掘り葉掘りというか、幅広く議会側が執行のところまで入れないのにやっても難しいので、この際これを少し整理して、条件を付して、学ぶ環境や条件づくり、居場所づくり、そういう人たちを支えるといった3つの視点で市としてどう思うかというようなところを教育委員会に問うてはどうかと思っている。

○肥後委員

京都市と上牧町に共通しているのは交通の便が恵まれていることだと感じている。浜田市は広大な面積を保有しており中山間地と沿岸部では全く条件が違う。今、市街地周辺に住んでいる不登校児童生徒は山びこ学級や青少年サポートセンターに通いやすいと思うが、それ以外の周辺部の地域は、決して不登校児童生徒がいないわけではないと思うので、最適な立地と行き帰りができる公共交通を含めた部分を調査研究して取りまとめ、教育委員会やほかの担当課とも協議しないといけないと思う。

○大谷委員

人と関わるのが大事というのはそのとおりなので、そういう機会を増やしていく必要が今後の方向性としてはあろうかと思う。その意味で肥後委員からも指摘があったように、京都は交通の便が良いし、上牧はコンパクトな6km²のまちで、そういう意味では浜田と全く異なる。施設に通える環境というのは今後考えていかなければいけないと思う。京都で言っておられた「人づくりがまちづくり」という観点の中で、今後地域の振興を考えたときにまちづくりセンターが中心ということもあるので、簡単にできるとは思わないが、拠点となるとなれば、まちづくりセンターの一角か学校の

空いた施設になろうかと思うので、現状をしっかりと確認するという話もあったので、落とし込むにしても浜田がどのような現状か、周辺部がどのような現状かということを確認していかないと正確な判断につながりにくいのではと思っている。

○永見委員長

不登校児童生徒は、旧浜田市内だけでなく周辺部にもかなりおられると聞いている。浜田の現状を確認して、そこらの対応をどのようにしたらということもある程度委員会でまとめていけたらどうかと思っている。

私もフリースクールに関しては会派で岡山へ視察に行って、仲間づくり、そして信頼できる大人との人間関係を形成すれば、ある程度子どもたちも心を開いて活動にも協力してくれるという話を聞いたので、そこらも含めて協議をするなり、現状をしっかりと把握して、そういう形の取組も考えたらどうかと思っている。

○三浦副委員長

皆の意見を伺って、例えば西田委員が言われた場所について、立地や機能、上牧町はアイランドキッチンを皆で囲んで料理もできるような環境だったが、青少年サポートセンターはやりにくいこともあると思う。そういう立地や機能というのは一つ比較検討しても良いと思ったのと、肥後委員や大谷委員が言われたように、アクセスがどうなのか。1か所しかそういう機能がないとすれば、遠くの方々は来にくい環境があるのかとか、もう少し身近にまちづくりセンターや学校の空きスペース、人員をどうするかは問題だと思うが、そういう活用の可能性があるのか。あとは、誰がそれを担うのかという体制の問題を含めて考える必要があると思ったのと、今は山びこ学級を市が運営しているが、官民連携というやり方を見てきて、市内でそういうことを一緒にできるような団体があるかという可能性を探ってみるとか。そういったいくつかの視点で情報を集めながら議論できると良いのではないかな。今皆が出された項目を整理するとそういう感じかなと。もちろんこれが全てではないので、加えていけば良いと思う。あと、やはりフリースクールの定義。西田委員も言われたが、どういう居場所を設ける必要があるのかを少し整理して、今の浜田市のスタイルで十分なのか、そうではない別の居場所を浜田市として設けるべきではないかなとか、そういった整理にもなると思うので、居場所をどのように我々が解釈するか、整理するかは議論の前段でしておく方が良いのではないかな。そういったポイントを軸に、これからの調査研究をしていったらどうかと思うがどうだろうか。

○永見委員長

皆から意見をいただき、最後に副委員長からポイントを発表してもらった。皆の発言内容を整理して、今から調査研究するポイントを決めて進めていけばと思うが、何項目かあるので、そのあたりについて決める方法はどのようにすれば良いか、皆の意見を伺いたい。副委員長にポイントを言ってもらったので、そこらを含めて今から協議する内容をまとめたものを提示し、そして今後の活動内容に合わせて、皆の意見を含めながら進めていけたらと思う。そのようにしてよろしいか。

○三浦副委員長

今所感を述べてもらったり、振り返る中で出てきたキーワードは、視察の考察というか、こういった視点で今後整理していくべきではないかという一旦の見解として示すものなので、そこをベースに今後こういった項目で委員会として調査していくかは、また別途整理し議論して進めていけば良いのではないかと。視察を終えた段階での考察なので、例えばそういった部分での現状との比較検討をしっかりとしながら、あるべき姿をきちんと委員会として明確にしていくことを共有したというところで、考察はそれで良いと思う。

○永見委員長

今皆にいただいた意見を集約して、考察としてまとめるということで、報告書に載せないといけないので、まとめる作業についてはどうすれば良いか。

○西田委員

いろいろな意見が出た中で、先ほど副委員長が少しまとめられたように、主立った考察は出たので、その考察を基に今後この委員会の進め方としては、5、6ポイントくらいあるかなと思うが、そのポイントを基に今後さらに研究を重ねていくという方向でまとめたらどうか。

○芦谷委員

検討する、研究するのはもちろん大事なのだが、この案件の扱いを次どこでするかははっきりさせたほうが良い。研究、検討していくと言ってそのまま終わって良いものなのか。私はそれでも良いと思う。まとめて報告になったことで完了するということが良いと思うが、できれば研究、検討と言わずに次にどこへ進むか。これで一件落着にするのか、次にどこへ行くかを決めたほうが良いような気がする。

○西田委員

これで一件落着というわけにはいかない。実際浜田市にどれくらいの不登校児童生徒がいるのか、まず現状把握をきちんとして、その中から青少年サポートセンターや山びこ学級にどのくらいの人通っていて、今後そういう方に対する環境を整備するにはどうすれば良いのか。現状の中で場所はここで良いのか、それとももっとプラスアルファした環境が良いのではないかと。官民連携や地域との関わりとか、いろいろなことが考えられると思うので、そういったことを含めて今後議論を重ねて少しでも前進させていくという方向性ではないかと思う。

○三浦副委員長

そもそもこの所管事務調査を行っているのは、今の浜田市における不登校児童生徒の対策が十分なのかという問題提起があり、それをもって視察にも行っている。したがって、課題認識をもって他市の事例を勉強して、その差を見て、ではどうするべきなのかという一定の見解を委員会として出さなければ、所管事務調査をやっている意味はないと思うので、最終的に出てきた我々の見解が、執行部に対してこうするべきではないかというところが出てくれば、もちろん提言という形になると思う。いずれにせよ現状がどうなのかということと、浜田市として目指すべき対策のあり方がどうなのかはこれから協議していく必要があると思う。結果だけを戻してもただの情報

共有になってしまうので、委員会としての見解は明らかにすべきだと思います。

○芦谷委員

もう一度言うが、私が事前に調べたことがある。5ページに書いてあるように「10年前に比べて増えている」ということである。執行部の見解とすれば夜間中学は必要ないとのことだが、これ以上精査しても仕方ない部分もあるので、できればこのような現状を踏まえて、一体執行する側はどうかと問い掛けたほうが良い気がしている。さらに研究、研さんをしてどこまで行くかは分からない。

○永見委員長

ほかに意見があればお願いします。浜田市にも不登校の子どもたちが100人以上いる。旧市内だけでなく周辺地域にもいるので、いろいろな意見が出たように、現状を把握して、今後の不登校対策をどのように取り組んでいけば良いか研究してみる必要があると私も思っている。その中でいろいろな項目が出てくるかもしれないし、協議事項や新たに取り組むべき課題も見出せるのではないかと思う。そのあたりから協議を重ねて今後進めていけば良いのではないか。それ以外に考えがあれば伺って、ポイントを今日ある程度絞り込んで、次回からこの案件について取り組んでいけば良い。

○松井書記

今日の委員会でどこまで話すかだと思いますが、まず急ぐのは視察の報告書を提出しなければいけない。ご存じのように、これは取組課題の視察なので、皆が言われるように今後どのようなゴールに向かっていくかも併せて協議されても良いと思う。どこまで今日話すのかと思いつながりながら聞いていた。

○永見委員長

視察報告書は肥後委員と芦谷委員にある程度まとめてもらった。それに対する考察については皆の意見をまとめてつくり、報告書に加えて議長へ提出する。今いただいた意見については今後の取組課題の一つとさせていただければと思うがどうか。

○佐々木委員

まずは、出された所感をまとめて考察にするのが一番先にやる作業である。それをどうやるかが今日のテーマだと思うが、それぞれで出すのか、それとも正副委員長で作業していただくのか、その辺がどうなのかというのがまずある。加えて言うと、そもそも不登校対策を所管事務調査にしたのは、浜田市の不登校が非常に増えている。全国で島根県が3番目に率が高く、浜田市もそれに準じている。人数で言うと、令和3年、4年度で極端に増えて、令和4年度に127人だったと思うが、そういう現状はすでに分かっている。そこで委員会として何かしらの提言なり要望なりして、その対策を少しでも進められないかというのがこのテーマの大前提だと思うので、それに向けて今回の視察をした所感をまとめる。誰がまとめるかは分からないが、そういった趣旨で進んでいくものと思っている。

○永見委員長

所感を出してもらい、意見を伺ったが、委員会の考察としてまとめるのを正副委員長に一任いただき、たたき台をつくって皆に示す形にさせてもらえればと思うがどう

か。

○大谷委員

流れとしてはそれで良いと思う。案を出してもらった後はどのように検討するか。

○永見委員長

原案を皆に送って目を通してもらい、皆とともに確認するのは次回の委員会にしたいと思うがどうか。

○松井書記

もう1回会議を開く余裕がないので、もし正副委員長に案をつくっていただくなら委員にはメール等で確認いただいて確定する方法が良いのではないかと思います。

○永見委員長

視察報告書の提出期限はいつだったか。

○松井書記

来週水曜日までに議長に提出することになっている。

○永見委員長

では、時間的に次回またというのは難しいと思うので、たたき台をつくった段階で皆に配信する。それに対して意見があればまた返信してもらう形で進めれば提出期限までに間に合うのではないかと思います。そのあたりでどうか。

○三浦副委員長

こちらで案を作成するときに、先ほどいただいた皆の所感を含めた部分をまとめながら、今後の活動の必要性という部分に対しては、場所やアクセス、体制、官民連携の可能性といった部分を切り口に、浜田での不登校児童生徒への対策を今後研究していきたいという方向性でまとめるような考察で良いか、という前段の問い掛けだった。議論する項目が、必ずしも先ほど述べたようなものだけではないと思う。これから議論していけばもっといろいろなことが出てくると思うので、今日伺った所感と意見の部分では、そういったことを一旦共通認識として持ったという方向性で考察を書かせてもらって良いかという最初の投げ掛けだった。

○大谷委員

方向性についていくつか例を挙げることにように受け止めたので、それをすることではなく、こういった点を今後考えていきたいということのまとめだと理解した。

○永見委員長

ではそのようにさせていただく。案がまとまり次第、皆に配信するので確認をお願いします。

○松井書記

行政視察レポートについても皆にお知らせをお願いします。

○永見委員長

行政視察レポートは、今後正副委員長が案を作成し、次回8月2日の委員会において皆に確認してもらい、全員協議会においてそれを報告する流れで考えているが、それ

でよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

ではそのようにする。では次回8月2日の委員会において皆に確認していただくよう進める。

2 地域井戸端会に寄せられた意見等への対応協議について (委員間で協議)

○永見委員長

子どもたちと地域の関わりについて、委員会の所感としてまとめた案を皆に配信しているの、意見をいただければと思う。

○三浦副委員長

子どもと地域の関係ということに対して、委員会として問い掛けをし、返答する内容をまとめている。読み上げるので意見や指摘があればお願いします。

(以下、資料を基に説明)

たくさんの意見があったので、いろいろな要素を踏まえながら案を作成したつもりだが、皆から意見を伺えればと思う。

○佐々木委員

いろいろな意見が網羅されて、素晴らしい内容だと思う。

○大谷委員

大体良いと思うが、1点ほど、地域の伝統というか、石見神楽を中心にといった意見だと私は受け止めているが、そうした地域の文化、伝統行事という視点、ワードを入れていただくと良いと思う。

○三浦副委員長

その意見があったことは認識している。中段の文化継承というところに含めた形で、石見神楽に限らず地域の文化ということで、文化継承に対する地域の役割があるということで包含した形にしたのだが、もう少し強調したほうが良いか。

○大谷委員

あまり大きく変えないのであれば、「歴史文化」という形でひっくるめてもらうのが良いと思う。

○永見委員長

ほかにあるか。

○大谷委員

もう一つ気になったところで、子どもという書き方のときに、平仮名なのか漢字なのか、どちらが適切なのか確認したい。

○松井書記

「子」だけ漢字で統一させていただければと思う。

○芦谷委員

これで良いと思う。それ以外の話だが、この種の方法というのはほかの委員会でも同じようにやるのだろうか。できれば、3つの常任委員会が歩調を合わせて同じよう

なゴールを目指していけば良いと思っている。

○永見委員長

ではこの案を進めてもよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

ではそのような形で進めたい。

次に、自由意見に対する回答については、委員会で協議して回答案をまとめる形で進めたいと思う。

提出してもらった回答案について、一人ずつ発表をお願いする。

(各委員が回答案を発表し、委員間で協議)

○永見委員長

暫時休憩する。

[10時 41分 休憩]

[10時 52分 再開]

○永見委員長

委員会を再開する。まちづくりセンターごとに発表してもらっているが、委員ごとに発表するように変更する。

(各委員が回答案を発表し、委員間で協議)

○永見委員長

暫時休憩する。

[11時 11分 休憩]

[12時 24分 再開]

○永見委員長

委員会を再開する。今回の自由意見に対する回答については、各委員に案を出してもらったが、正副委員長で整理しながら検討し、検討したものを皆に改めて配信するので、確認し、問題点があれば指摘してもらおうという形で進めたいがよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

ではそのようにするのでよろしくをお願いします。

以上で総務文教委員会を終了する。

[12 時 25 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員会委員長 永見利久